

重症心身障がい児への絵本セラピー

－唾液アミラーゼ値測定による考察－

塚田薫代

地方独立行政法人静岡県立病院機構静岡県立こども病院

1 背景

司書は業務の中で、重症心身障がい児（以下児）への絵本朗読を行うことがある。児には「聞き入る様子」「文節で呼吸」「読み終わると手を動かす体動」が看られる。これらは絵本朗読に反応していると解釈できる。健常児では絵本朗読により、唾液アミラーゼ値が下がり、ストレスが軽減することがわかっているが、児も同様ではないかと推測される。今般、児の唾液アミラーゼ値を測定し、ストレス軽減をデータ化し評価すると共に、代理表現者である保護者へのアンケート調査にて、感情の変化も評価する。

2 目的

絵本朗読が重症心身障がい児のストレス軽減につながることを明らかにする。

3 方法

① 絵本朗読による唾液アミラーゼ値測定

対象児は、発語不可の児（大島分類の1～4）年齢的には幼児～学童前期を想定している。司書が児に絵本を朗読し、その前後で唾液アミラーゼ値を測定する。絵本は同一性を保持するため同じ本2～3冊を使用する。測定には、ニプロ 乾式臨床化学分析装置 唾液アミラーゼモニターを使用し、チップによる唾液採取は非侵襲である。

② 保護者へのアンケート調査

対象者は①で測定を行った児の保護者。予め作成したアンケート用紙に無記名で記入してもらい、児および保護者の感情の変化を keyword 抽出により評価する。

4 利益の予測

- *入院・治療・検査などストレスの多い児のリラックス効果を得られる。
- *保護者・看護師・ボランティアの意識付けと行動変容をうながす。経験的に行っている絵本朗読に意義を見出し、さらなる発達支援を行う動機づけとなる。
- *絵本という馴染みのツールを使うことで、公共図書館との繋がりを期待する。

5 その他

本研究は当院倫理委員会の審査を受け、倫理面に充分配慮している。

6 参考文献

- 1)大島一良.重症心身障害児分類—大島分類の由来.日本重症心身障害学会誌 1998;23(1)4-7
- 2)神内彩.キャリーオーバーした重症心身障害者を対象とした絵本の読み聞かせの効果.日本看護学会論文集:小児看護 2010;41号 169-171
- 3)阿尾有朋.超重症児への療育的介入における唾液アミラーゼ活性値による評価法の検討.日本重症心身障害学会誌 2015;40(3)393-400